

令和6年度第2回宮代町立小・中学校一貫教育推進委員会の  
会議録

1 日時・場所

令和7年3月6日（木）15:00～16:00

役場庁舎202会議室

2 出席者

審議会委員：14名出席

上田委員長、齋藤委員、木村委員、金野（木下）委員、塚越委員、高野（六平）委員、山口委員、谷委員、栗原委員、長井委員、朝武（山本）委員、山本委員、石井委員、中村委員、河原委員

事務局：教育推進課：竹内学校管理幹兼副課長

3 開会

4 挨拶

中村教育長から挨拶

上田委員長から挨拶

5 議事

令和6年度教育行政重点施策の「中学校区を中心とした特色ある小中一貫教育の推進」について説明後、各中学校区の実践について資料を基に発表があり、その後、協議を行った。

上田委員長：今日はどこの学校も補足があり、どこの学校も一生懸命にやったのだろうということが感じられました。それでは、Sプランについての感想でも結構ですから、中村さん、それから前原中さんにも伺いますので、よろしくお願いします。

中村委員：私は子供が小学校と中学校に1人ずついます。書面を見てみると、先生方がこんなにやってくださっていることがわかるのですが、子供の話を聞いていて印象に残ったのが、11月に百間中学校のお兄さんお姉さんが小学校に職場体験に来てくれた時の話でした。兄の部活の先輩が小学校に来たことを二人で話していて、娘は、中学生こんなにすごいんだよと、中学校に行くことへの憧れを口にしていました。中学校1年生の息子の方は、日頃、身近に接している部活の先輩がそのように褒められていることに対して、先輩ってすごいでしょという感じで、先輩に対して尊敬のような感情を口にしていました。このような交流がなければ、小学校は小学校、中学校は中学校となり、このような憧れも生まれないでしょう。けれども、先生たちがこのようにやってくださることで、子供たちは自覚はしてないけれど、中学校にスムーズに行けるようになっていくということを感じました。

上田委員長：山本委員、いかがですか。

山本委員：8月に開催された学校保健委員会に参加しました。先生方はお休みにも関わらず、大変だと思いました。専門家の話を直接伺う機会となり、小学校での成長と中学校での成長がそれぞれ違うことを感じました。今こういうことをするべきですよとか、薬の話ですとかいろいろ聞けて、良い体験をさせていただきました。これからは教育だけではなく、心の健康も続けていかなくてはいけないと感じました。

上田委員長：河原委員いかがですか。

河原委員：小・中が近いので交流が活発にされていると感じました。いいなと思ったことは、中学校3年生が小学生に合唱を披露したことです。私も初めに中学生の合唱を聞いたときに、中学生と小学生はこんなに違うのだということを感じたので、小学生は中学生のすごさを感じたのではないかと思います。近いからこそできることでないかと思います。百間中は、東小と笠原小と場所は離れているけれども、たくさんの交流をされているということを感じました。この会に参加して、小・中が一緒になってやっていることをとても実感することができました。勉強になりました。

上田委員長：1小1中でないことの良さということですね。山本様、いかがですか。

朝武（代理山本）委員：子供から、中学生が来てこういうことをやってくれたという話を聞いたことがありませんでした。こういう取組をしていることをもう少し子供に聞かないといけないと思いました。私自身は、須賀小・中学校の卒業生ですが、子供の頃にはこのような交流があまりありませんでした。今はこのような取組をして、中1ギャップを取り除こうとしているのは、素晴らしいと思いました。私の子供は学校が楽しくないと言います。笠原小では学校が楽しいという児童の割合が95%ということ伺いましたが、どのような取組をしているのでしょうか。子供が楽しむことをわざわざ学校が与えてくれるものではない、自分で何を感じて何を楽しいと思うかという心が大事だと子供には話しています。楽しいなと受動的に考えることができないと積極的に何かに取り組んでいくということができていないので、どうしたら自分の心で楽しいと考えることができるようになるのかと思っています。親として子供を教育していく上での課題と感じています。

上田委員長：山口委員お願いします。

山口委員：今、笠原小学校で教職員に話をしている内容は、大きくは2点です。まず1点目が、子供が活躍をしたり、子供が嬉しくなったりというような環境を、教職員が作るということを話しています。子供たちが主体というふうにもっていくのですけれども、そのベースにあるのは教職員が意図的なねらいをもって子供たちが活躍できる、楽しめる環境を作っていくということです。もう1点が、心の教育です。学校は、小社会、社会の縮図というふうに言われています。様々な家庭の状況から登校してくる子供たちが学校という学び舎

に集まります。笠原小学校には、「学校は住まい」だとか「学校は家」であるというようなキャッチフレーズがあって、その教室に入ったら、望ましい社会生活を送り、授業が終わった時には、学校からさよならというふうに帰らせるようにしようと言っています。望ましい社会生活とは何かについては、一つは、子供の少しの変化に教職員が気付き、また気付く感性を持って、積極的に「何かあった？」というふうに語りかけていくということです。もう一点が、当たり前のことをしたとしても、社会的に望ましい行動だった場合には、授業中であつたとしてもその場で褒めようということです。後で褒めようとしても忘れてしまいます。あまりに忙しくて。授業中の時間であっても、褒める活動というのは必ず入れなさいと指導しています。それから、もう一つ、教職員に話をしていることは子供の成長の結果に焦らないということです。根気よく、繰り返し、細胞に染み込むまで、繰り返し、繰り返し話をするということです。例えば、今日なかなか宿題が手につかないという状況があつたとすれば、翌日、宿題をやらせようとするのではなく、繰り返し、繰り返し話をしていく中で一月、二月、気付いてみたら、やるようになっていた、それが教育活動ですと話しています。それによって、大きな声で、指導したりとか、焦って指導したりというようなことは随分減ってきました。少し小中一貫教育から外れてしまいましたが、私の学校経営方針も踏まえた上での話をさせていただきました。

上田委員長：教育活動の主役は子供ですね。子供を教育活動の主役にするのは先生ですね。石井委員いかがですか。

石井委員：私自身３年間、この会に参加させていただき、今日をもって終わりになってしまいます。今日、中学生は受験の発表があり、うちの子も高校生になれるようになりました。先生方のお陰だと思っています。見ていて３年間感じるのは、自分の子供の頃になかったことを知って、うらやましく感じます。こういう町でこういう教育を受けられた３人の子供がいますが、非常にありがたかったと感じます。立場を変えてＰＴＡ会長として話をさせていただくと、コロナを挟んでいろいろなことが変わったと感じます。３年前、私が会長になったときは、コロナの終わりごろでしたので、ここに書いてある内容も、ほとんどがオンラインですとか中止ですとかが多かったと思います。先ほどの前原中学校の発表にあつたピザパーティーなどは御法度でしたが、今はこのような場を提供していただいている先生方に本当に感謝しています。ＰＴＡの組織としてもありがたいと思っています。須賀中学校では学校運営協議会で話し合い、上田委員長にも入っていただいて、今年度、小・中引き渡し訓練を行いました。最終的には、小学校の引き渡し訓練まで中学生に入っていただくことへもっていけるといいなと思い、そこに上田委員長が中心となり関わっていらっしゃる地域の防災の方々にも集まっていいただいて、中

学校区として地域の防災訓練ができるといいなと考えています。その取り組みとして、PTAの特別会計を使って、防災備蓄品、食べ物ですとか、トイレですとか、女子生徒の生理用品ですとか、そのような物まで確保することを行いました。須賀小・中、隣同士だからこそできること、逆にやりづらいこともあると思うのですが、このような取組を今後、県外にも発信できればいいなと地域住民として願っています。

上田委員長：ありがとうございます。一貫教育の推進は、県でもトップクラスという地域です。木村委員、いかがですか。まとめの話をお願いいたします。

木村委員：今日はいろいろお話を伺わせていただき、ありがとうございました。各学校で、中学生の合唱を小学生が聞いたり、体育祭を見学したり、バザーに関わったりと、お互いに見られる機会が本当にコロナが終わって行えるようになり、よかったと思います。先ほどの話にありましたが、職場体験で、中学生が小学生を教える機会ができてよかったです。お互いを見合わせることで、小学生が成長していくんだという希望をもてたり、中学生がいろいろな場面で自分の活動に対して、小学生の反応を見て自信につなげたりできていて、とてもよい活動ができたのではないかと思います。子供3人、笠原小、百間中でしたが、真ん中の子が、笠原小で職場体験を3日間経験しました。夏に水泳授業等も体験したのですが、それで教員になりたいと思って、無事、教育系の大学も出て、中学校の教員をしています。自分が教員になり、職場体験の段取りをするときに、9ヶ所も希望を聞くようで、少しでも子供の未来に繋ぐ体験ができるようにと綿密に組み合わせを考えていました。こういう職場体験が、その子たちの夢や希望に繋がっていけるといいことであって、それが本当にコロナ禍があけて、お互いの学校交流も含めてできるようになってすごく良かったなと思いました。先生方も相互授業参観とか、夏休みの交流の研修とか、宮代は充実していると息子も言っていました。宮代は小・中の繋がりが充実した教育をしていて、このようなところに子供たちが通えていてよかったと思います。コロナ禍で1人1台のタブレットでの授業が予定より早く行えるようになった中で、視力の低下の問題とか、今度はデジタル教科書に移行していくとか、いろいろ話が出ていると思います。自宅に帰って授業以外の不適切な使い方を親が心配しているということもあると思います。ネットの中でのいじめや目に見えないいじめとか、中には闇バイトなどの低年齢化等、危険なリスクが増えてきている世の中になってきているので、いろいろな体験を通して、子供の心の教育も長い時間をかけて行っていく必要があると考えます。心の豊かさ、自己肯定感、思いやりの心等、引き続き学ぶ機会を増やしていただけるとありがたいです。

上田委員長：心の豊かさが強調されていたように思います。斎藤委員、お願いします。

斎藤委員：中学校区の3校の推進計画、実施内容を見せていただきまして、この1年間

大変な思いをして実践されたということが拝察されます。ありがとうございました。拝見させていただいて、褒めることだけでなく、私は、課題とかも出さなければいけないと思っています。みんなが良かった、良かったで終わった推進委員会では推進委員会にならないと思います。申し訳ないので、自分が興味があったこととお話させていただこうと思います。中1ギャップの解消ということで、各学校取り組んでいると思うのですが、実際、数値として、不登校は増えているのか、減っているのか、横ばいなのか、傾向的にどうなのか私は知りたいと思います。行っている内容の方向性が正しいかどうかを何で見ているのか、文科省の今年の数値は増えています。それが増えている傾向であっても、こういう取り組みをやっているのか、宮代町は横ばいである。横ばいということはかなりの努力が必要なわけです。逆に減るといえば、素晴らしい成果が出ているということです。事務局の方ではそういうことは把握してますか。

事務局：資料がないため、具体的な数値はお話しできませんが、本町も増加傾向にあります。ただ、県のデータと比べると、宮代の増加の割合はそんなに高くはありません。

齋藤委員：数値的なものを見ないと、結果というものはわからないと思います。中学校1年の不登校が減っていれば、中1ギャップを解消できたという一つの指標になると思います。そういうことで、発表の中でも触れていただくと、非常に成果がわかりやすいと思っています。それから、教育委員会の重点の中にあった9カ年の教育課程、これはやっぱり学力の向上が、目的ですよ。そうすると、例えば県学調や何かの中で他市との比較でなくて結構なんですけども、その学校自体で伸びや個人内の経年度評価を見ていくと取組として非常に良かったのではないのでしょうか。学力が伸びていないとなれば、推進するにあたって一度振り返ってみて、検証していかないと何の進歩もないように思えます。改善策として、何かを見ながらやっていくことが、私は肝要であると捉えています。私の個人的な意見で、一生懸命やっていたら先生方には申し訳ないと思っていますが、私はそんなような思いでいます。せっかく集まってやっているのであれば、きちんとやっていた方が、改善策も見い出せるし、それによって子供もよくなるのであれば、推進委員会をやっている意義が出てくるという思いを大変恐縮ですがもちました。

上田委員長：最後に私も。Sプラン、ゆずり葉プラン、Mプランの発表を聞いて、雪だるまの話思い出しました。コロナの話を聞いて、これが30センチメートルのとまってしまった雪だるまのかなという思いになりました。その後、いろいろな新しい取組が進み、だんだん、学校が動き始めて、大きな雪だるまになっているのではないかという視点で発表を聞きました。新しい試みもあるし、復活したものもあるし、子供が生き生きと活動しているということ、須賀小、須賀中のように1小1中の隣の学校もあれば、百間

中学区のように、離れた所でも連携を図っているということ、そういうことが、成果ではないかと思います。私は「継続は力なり」という言葉は好きではありません。「継続は力、そして積み重ね」「継続は力、プラス積み重ね」、今は積み重ねの上に行っている段階ではないかと思います。最後に、石井委員さんが強調していた須賀中学区の合同防災訓練は、須賀中と須賀小でないとできないものです。その実施までには3年かかっています。実際にやれるまでに。いろいろな課題が出て、決定しようか、まだ検討が必要かなどと話し合いました。須賀中の場合は一次避難で外に出ますが、二次避難で須賀小の校庭に出ました。三次があればもっとよかったです。どういうことかということ、学年ごとに避難していましたが、今度は地区ごとに集まって、そこに親が引き取りに来れば、実際生きてきます。来年はそのようなところまでいくのではないかと思います。総合的にも大きな捉えをしていくということです。それが大きな雪だるまになり、かまくらになるということです。ありがとうございました。来年からも期待しています。

## 6 その他

### 事務連絡

## 7 閉会